

令和 4 年 5 月 27 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02570

研究課題名（和文）同族企業の後継者特性が企業のリスク行動に与える影響：定量的分析

研究課題名（英文）Influence of Successors' Personalities on Risk Behavior of Family Firms:
Quantitative Analysis

研究代表者

浅羽 茂 (ASABA, SHIGERU)

早稲田大学・商学大学院(経営管理研究科)・教授

研究者番号：60222593

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、現経営者、承継候補者の心理的特性や両者の関係性と事業承継プロセスについて、2回の質問票調査を行った。また、同族企業数社に対して事業承継についてインタビュー調査も行った。心理的特性と事業承継については分析中であるが、研究開発投資を行った（長期的存続を重視する）企業、十分な準備期間の確保や（金融機関など）親族外人物による関与という事業承継のための課題を認識している企業は、後継者を決定する可能性が高いことが示された。また、事業承継は、承継者が新しい視点を持ち込み、企業変革を行う良い機会であり、旧世代との建設的な議論を通じて自社の強みや価値を再確認することが肝要であることが観察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ほとんどがファミリー企業である中小企業は、日本経済において高いプレゼンスを示しているが、全体の3割に当たる企業が後継者不在で、事業承継が深刻な問題となっている。本研究は、事業承継を実現するための課題や承継者が決まっている企業の特性を明らかにし、事業承継の問題に対する対処法を提示している。

また、ファミリー企業は、従来の事業やビジネスモデルを継続するがゆえに企業変革を達成しにくいと考えられるが、本研究は、事業承継が企業変革の良い機会であり、世代間での建設的な議論を通じて自社の強みを再確認することが、企業変革を進めるにあたって肝要であることを示した。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted two questionnaire surveys on the psychological characteristics of current managers and succession candidates, their relationship, and the business succession process. We also conducted interviews with several family firms regarding business succession. While psychological characteristics and business succession are being analyzed, we found that firms with R & D investment, which pursue long-term survival, or firms which realize the importance of sufficient preparation period and involvement of non-relatives for business succession are likely to determine a successor. We also found that business succession is a good opportunity for the successor to bring in a new perspective and carry out corporate transformation, and it is important to reconfirm the strengths and values of the firm through constructive discussions between generations.

研究分野：経営学

キーワード：ファミリー企業 中小企業 事業承継

1. 研究開始当初の背景

これまで経営学においては、現代企業では株式が分散所有され、専門(俸給)経営者によって経営が行われるという考え方がなかば常識として共有されていた(Berle & Means, 1932)。この常識に従えば、創業者一族が株式を保有すると同時に経営も担う同族企業は、時代遅れの経営形態と考えられる。しかし、Berle & Means(1932)の研究から 90 年たった今日でも、同族企業は世界中にあまねく存在している。日本経済においても、ほとんどが同族企業である中小企業は高いプレゼンスを示している。

それゆえ経営学においては、2000 年前後に、同族企業と非同族企業との間で経営成果を比較する実証研究が行われた。しかし、このパフォーマンス比較の実証研究は、同族企業と非同族企業のどちらが優れたパフォーマンスをあげるかについて、必ずしもはっきりした結果を導出していない。それは、同族企業間でも何らかの点(要因)において違いがあり、その要因の違いによって企業のリスク行動に差異が生じ、その結果としてパフォーマンスに差異が表れていると理論的に推察される。その要因のひとつが、「後継者の存在とその特性」である。

これまで同族企業の特徴を導く理論はいくつか提唱されているが、そのなかの 1 つに社会情緒的資産理論(Socio-emotional wealth theory)がある(Gomez-Mejia et al., 2011)。同族企業のオーナー(経営者)は、財務的リターンだけでなく、事業を通じて得られる非財務的な価値、たとえばアイデンティティ、創業家一族の影響力、支配力の維持といった社会情緒的資産に関心があるという考え方である。この考え方に基づけば、同族企業は、企業価値を高めるかもしれないが社会情緒的資産を低下させてしまうようなリスクのある行動は回避すると考えられる。

これらの社会情緒的資産の先行研究では、事業承継(たとえば創業家メンバーが創業家外の専門経営者よりも事業を承継する可能性が高いのはなぜか)について議論されることはあるが、創業家メンバーが企業の所有、経営を引き継ぐことが前提とされている。しかし、常に同族の後継者が存在しているとは限らない。少なくとも日本の中小企業にとって、後継者不在、事業承継は深刻な問題であるにもかかわらず、同族企業の事業承継を阻害する要因、促進する要因などは、既存研究で明らかにされていない。また、後継者が血縁、能力からみて、どのような人物かについても、同族企業の継続性への欲求とそのリスク行動に大きく影響を与えることが推察されるが、これらの後継者の存在およびその特性について、既存研究は十分に検討されていない。

2. 研究の目的

本研究は、(とくに中小規模の)同族企業における事業承継の実態について調査し、事業承継にかかわる様々な問題について検討する。まず、事業承継を難しくする要因、促進する要因を明らかにする。そのなかの要因には、事業環境、承継プロセスについての要因に加え、現経営者や承継候補者の心理的特性が含まれる。また、後継者の有無および経営者や後継者の特性が、企業のリスク行動に与える影響を分析する。企業のリスク行動については、新製品やサービスの導入頻度、研究開発投資の額、地理的多角化の程度などで測定される。

3. 研究の方法

本研究では、日本の中小製造業を対象とした定量的分析と、インタビューによる定性的調査を組み合わせるにより、上記の問題について分析を行う。

質問票調査は 2 回行った。1 つは、現経営者の心理的特性(心理学でよく用いられるビッグ 5(外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性)やナルシズム)と事業承継プロセスについて、中小企業の現経営者に対する質問票調査である。もう 1 つは、現経営者と承継候補者の心理的特性の一致度、両者の関係性、事業承継プロセスについて、中小企業の現経営者と承継候補者の両方に対する質問票調査である。この質問票調査によって収集したデータと二次データを利用し、定量的な分析を行った。

加えて、ファミリー企業数社に対して、事業承継についてのインタビュー調査を行った。

4. 研究成果

収集したデータの定量分析からは、研究開発投資を行った企業、十分な事業承継準備期間の確保や(金融機関など)親族外人物による承継プロセスへの関与が重要であると考えられる企業は、後継者を決定する可能性が高いことが示された。研究開発投資を行う企業は、長期的存続を重視し、事業承継に熱心になるのではないかと考えられる。準備期間や相談相手が事業承継上の課題であると認識する企業は、認識した課題に対応し、事業承継を進めることができるのではないかと考えられる。

現経営者の心理的特性と事業承継の関係については、現経営者のナルシズムの程度が強いほど、後継者を定める傾向があるが、この関係は企業規模が大きくなるにつれて弱くなることが分かった。これは、ナルシズムの強い経営者は、自分の価値観とアイデンティティを植え付け

るために、早い段階で後継者を任命することを好むのではないかと考えられる。ただし、既存研究でも指摘されるように、経営者の個人特性が企業経営に及ぼす影響は、企業規模が大きくなるにつれて弱まるので、経営者のナルシズムの程度と承継者の任命との関係も、企業規模が大きくなるにつれてよく和なると考えられる。

また、インタビューによる定性的な分析からは、事業承継が、承継者による新しい視点、戦略の持ち込みによって、企業変革を行う良い機会であることが示された。ただし、企業変革を達成するためには、新旧世代間での建設的な議論を通じて、自社の強みや価値を再確認することが肝要であることが示された。それがないと、旧世代から変革に対する強い抵抗が生じ、変革や承継がうまくいかなくなるからであると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山野井順一	4. 巻 54
2. 論文標題 経営学研究における定量的研究の潮流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 組織科学	6. 最初と最後の頁 4-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11207/soshikikagaku.20210715-1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Asaba Shigeru, Wada Tetsuo	4. 巻 32
2. 論文標題 The Contact-Hitting R&D Strategy of Family Firms in the Japanese Pharmaceutical Industry	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Family Business Review	6. 最初と最後の頁 277 ~ 295
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0894486519852449	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浅羽茂、井口衡、鳥田友起、山野井順一	4. 巻 70
2. 論文標題 ファミリー企業における事業承継：サーベイ・データの分析をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 商工金融	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Koo, J., Yamanoi, J., & Sakano, T.	4. 巻 118
2. 論文標題 Acquisition announcements and stock market valuations of acquiring firms' alliance partners: A transaction cost perspective	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Business Research	6. 最初と最後の頁 129-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jbusres.2020.06.018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kito, T., Moriya, N. & Yamanoi, J.	4. 巻 72
2. 論文標題 Inter-organisational patent opposition network: How companies form adversarial relationships	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Economic Review	6. 最初と最後の頁 145-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42973-020-00057-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計5件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Iguchi, H., Yamanoi, J. & Katayama, H.
2. 発表標題 Family CEOs' Perceived Certainty of Family Managerial Succession and Organizational Ambidexterity
3. 学会等名 Academy of Management Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yamanoi, J., Takeuchi, Y. & Kito, T.
2. 発表標題 Boundary Conditions of Optimal Distinctiveness and Imitation Strategies: A Computational Modeling Approach
3. 学会等名 Strategic Management Society 41st Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 He, B., Edman, J., & Yamanoi J.
2. 発表標題 Entry Mode Still Matters: A Replication and Extension of Shaver's (1998) Endogeneity Thesis
3. 学会等名 The 80th Annual Meeting of the Academy of Management (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Iguchi, H. Yamanoi, J., & Katayama, H.
2. 発表標題 Succession Expectations of Family CEOs and Investment Time Horizons
3. 学会等名 The 78th Annual Meeting of the Academy of Management (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iguchi, H. Yamanoi, J., & Katayama, H.
2. 発表標題 CEOs' Religiosity and Corporate Environmental Proactivity.
3. 学会等名 The 78th Annual Meeting of the Academy of Management (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 下谷 政弘、川本 真哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 230
3. 書名 日本の持株会社	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	山野井 順一 (YAMANOI JUNICHI) (20386543)	早稲田大学・商学大学院・准教授 (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------